

希望は欺かない

この講話は、2025 年に開催される通常聖年「希望は欺かない」に関する教皇フランシスコの大勅書を紹介しています。希望と解放をテーマに掲げ、聖年が新たな恵みの年として祝われる背景について、旧約聖書と新約聖書のジュビリー（聖年）の伝統を踏まえながら説明しています。

- 1. ジュビリーの意義と背景** ジュビリー（聖年）は旧約聖書のレビ記に基づき（レビ記 25:8-13）、50 年ごとに行われる特別な年で、負債の帳消し、土地の返還、奴隷の解放を通じて人々に再出発の機会を与えるものでした。これは神の正義と慈しみ、すべての人の平等を象徴し、社会的弱者に新たな希望をもたらすものでした。新約聖書（ルカ 4:16-21）では、イエス・キリストがジュビリーの意味をさらに深め、すべての人に向けた救いと霊的な解放の象徴として、自らを「最終的な解放者」として示しています。
- 2. 2025 年の通常聖年** 2025 年の聖年「希望は欺かない」では、教皇フランシスコが、現代社会の課題に対するキリスト教的希望の重要性を説き、すべての信徒が希望を再発見し、それを広める機会にするよう呼びかけています。聖パウロの「希望は欺かない」という言葉を引用し、信徒が忍耐、和解、そしてキリストへの信仰を通じてこの希望を強めるように勧めています。

主なテーマ

- **平和と正義**：教皇は、紛争と暴力の終結、そして国際的な対話と交渉を通じた正義の実現を強く訴えています。
- **社会的な脆弱層への配慮**：移民、高齢者、若者、貧困層への連帯と支援の重要性が強調され、特に貧しい人々に対して新たな社会的な連帯を促しています。
- **キリスト教徒の一致とエキュメニズム**：2025 年にはニケア公会議 1700 周年を記念し、東西のキリスト教徒が同日に復活祭を祝う予定で、これがキリスト教徒の一致の象徴となると期待されています。
- **赦しと和解**：聖年を赦しと和解のための機会とし、特に受刑者や病者に対して神の慈しみを示すよう呼びかけています。

また、教皇は持続可能な社会の構築と、貧しい国々の債務免除、そして環境保護に向けた責任ある行動を求めています。このように、教皇フランシスコは 2025 年の聖年を、すべての信徒にとって霊的な刷新と、連帯と正義に満ちた世界を目指す具体的な希望の機会とすることを願っています。

3. 聖年の四つの聖なる扉は、信者たちが巡礼の道をたどりながら通過する象徴的な場所であり、ローマにある四大聖堂への訪問を通じて、信仰、悔い改め、そして心の再生を意味しています。それぞれの聖なる扉には、それに属する聖堂や、神との和解と回心の道に関連した特別な意味があります。救いの「門」である主イエス（ヨハネ 10・7、9 参照）。

以下が四つの聖なる扉の意味です：

1. **バチカンのサン・ピエトロ大聖堂**：サン・ピエトロ大聖堂の聖なる扉は、おそらく最もよく知られており、カトリック教会の中心を象徴しています。この扉を通ることは、教会の権威を認め、ローマ教皇とキリスト教共同体全体との交わりを表す行為です。サン・ピエトロ大聖堂は、神との深い繋がりを取り戻すための迎えと赦しの象徴です。
2. **サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂**：サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂は、ローマ教皇の司教座聖堂であり、世界最古の大聖堂です。この聖なる扉は、和解とキリスト教共同体における交わりの重要性を象徴しています。それは信仰への回帰と教会との和解を強調し、罪の赦しと再生を意味しています。
3. **サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂**：使徒パウロに捧げられたこの大聖堂は、神の言葉を世界に広めるための宣教のシンボルです。サン・パオロ大聖堂の聖なる扉は、回心の道を象徴し、自分の信仰を真摯に生き、他者に伝える決意を意味しています。これは福音を遠くまで伝えるための宣教の使命を呼びかけるものです。
4. **サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂**：サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の聖なる扉は、聖母マリアの姿と神の慈悲、母なる愛に関連しています。この扉を通ることは、庇護と保護を求める行為であり、イエスの母であるマリアによって象徴される神の慈愛と温かさを表しています。